小型ハードル走の授業における OPP シートから見た

小学 3 年生の知識の変容

金内 耀平 (弘前大学)

1. 目的

本研究は、小学 3 年生を対象に小型ハードル走の授業において OPP シートの単元前後の記述から児童の知識の変容を明らかにすること、また、知識の変容とハードル走の測定記録との関係について検討することを目的とした。

2. 研究方法

1) 研究対象：小学 3 年生 54 人

2) 単元計画：全 6 時間の小型ハードル走

3) 分析項目：①OPP シートにおける単元前後の記述記録を KH Coder3 を用いて語句と共起ネットワーク図を分析 (牛澤, 2018)、②ハードル走の測定記録として 40mH 走 (ハードル 4 台設置) のタイム、ハードリングロスタイム (40m 走と 40mH 走のタイムの差) および 3 歩成就率 (全てのインターバルランを 3 歩で走れた人の割合) は単元の前後で測定、40m 走のタイムは単元前のみ測定

3. 結果と考察

OPP シートの記述記録をハードル走の 5 つの運動局面 (スタート、助走、ハードリング、インターバルラン、ランイン) に語句を分類した結果、助走、ハードリング、インターバルランの語句数が単元前より単元後で増加した。ハードリングは最も語句が増えた局面で、その要因としては本単元が一貫して他の動作よりハードリングに重点を置いた授業展開であり、教員が意図した知識を学習できた結果だと考えられる。単元前後の共起ネットワーク図において、単元前は 30 語が、単元後は 36 語が出現した。単元前に示された「跳ぶ」、「高い」、「足」、「知る」という語句で構成された最も大きな群に「リズム」、「走る」、「ジャンプ」という語が頻出し、「知る」が出現しなかった。

測定記録は、40m 走が 8.41 ± 0.60 秒、40mH 走が

単元前で 9.40 ± 0.76 秒、単元後で 9.18 ± 0.79 秒であり、5%水準で有意差が認められた。ハードリングロスタイムは、単元前が 0.99 ± 0.45 秒、単元後が 0.77 ± 0.54 秒であり、5%水準で有意差が認められた。3 歩成就率は単元前で 68.5% (12 人)、単元後で 77.8% (42 人) であり、9.3% 向上した。単元後にインターバルランを 3 歩で 3 区間を走った対象児の中で、単元前も 3 歩で 3 区間を走り 40mH 走の単元後の記録上位 2 人 (抽出児 A・B) と、単元前にインターバルランを 3 歩で 0 または 1 区間を走った 2 人 (抽出児 C・D) とで、OPP シートの記述記録を検討した。その結果、語句数に大差は無かったが、抽出児 D の記述を見ると、「跳んだら後ろの足を前に出す」、「リズムよく跳ぶと良い」といった他の 3 人の抽出児に比べて、より具体的なハードル走のポイントについて触れた記述があった。抽出児 A・B は抽出児 C・D に比べハードル走の測定記録は良かったが、抽出児 D のように OPP シートに具体的にハードル走のポイントを記述する児童がいることから、測定記録と知識の変容について関係性を見つけることは出来なかった。

4. 結論

本研究では、OPP シートの記述記録を分析すると、小型ハードル走に関する語句が増加したことや単元の前後で知識に具体性が増しつながりが深まったことが明らかになった。しかし、ハードル走の記録と知識が必ずしも結びついているとは限らないという可能性が示された。

<参考文献>

- 1) 牛澤賢二 (2018) やってみようテキストマイニング増訂版. 株式会社朝倉書店: 東京.